

第8回学校建設
準備委員会 概要報告

新しい学校の施設構成を検討しました

11月18日、町民センター3階講堂において「第8回真鶴町学校建設準備委員会」が開かれました。今回は協議の中でグループワークが予定されていたため、事前にグループ分けがなされ、座席が決まった形で始まりました。

前回の学校建設準備委員会で新設学校の学校制度を「義務教育学校」とすることが決定したことを受け、今回は新設学校の「施設構成案の考え方」を主題として、学年の区切りなどソフト面の考え方と、各室の考え方・屋外スペース等のハード面について、グループワークで話し合いました。それでは、第8回学校建設準備委員会の協議内容等について報告します。



「学年の区切り」について検討しました

施設構成案について話し合う前に、学年の区切りを検討しました。校舎施設の階層や昇降口の位置にも影響があるからです。また、義務教育9年間の学年の区切りを「小学校6年間」と「中学校3年間」とする「6・3制」が導入された戦後間もない頃と比べて、社会環境や子どもを取り巻く環境は大きく変化しました。義務教育期間の子どもたちの心身の発達の早期化、価値観などの変化は著しく、特に小学校から中学校への新しい環境に移行する段階でのいじめ・不登校が増加する、いわゆる「中1ギャップ」や小学校4～5年生段階での発達上の段差など、義務教育の学

年区分や学校種間には、教育課程を含む接続のあり方に課題があると指摘されています。

そうしたことから、真鶴町教育委員会は「4・3・2制」の学年の区切りを提案しました。真鶴の課題と強みを踏まえて、9年間でそれらを解消するために指導上の重点を定め、小・中学校で共通理解のもとに取り組み、特に小・中学校段階において、意図的な移行期間を設けることによって、質の高い教育を実現していくことが目的です。主な意見は次の通りです。決定した学年の区切りについては、『広報真鶴（2月号）』でお知らせします。

- *頭を「4」で区切るのは、小4ビハインドの点から、そして自身の経験からも賛成。
- *児童生徒の学習面や生活面を考えると、4年生がポイントになるため、1～4年生で区切りをつけた方がよい。
- *中1ギャップは、9年間の一体的な教育や先生同士のつながりができれば解消できると思うが、義務教育学校としての変化や新しいチャレンジをどの段階に設定するかが課題。
- *小中双方の免許取得の課題や、教育の法制度を考えると、学年の区切りを明確に設ける必要はないのでは。
- *小学校3年生でリーダーシップを経験でき、小4～中1をひとまとまりとした「3・4・2制」の可能性もある。
- *今までの「6・3制」の中で、小学校段階で2回のリーダー経験ができるような「4・2・3制」の方が安定しないか。
- *子どもたちの成長や学びに関することであり、教員の意見を聞いたうえで、学年の区切りを決定していきたい。

グループワーク「施設構成案の考え方」

グループワークでは、これまでの学校建設準備委員会や教育を語り合う会、各種アンケートなどで出された意見や要望を踏まえてつくられた「各室の考え方と施設構成案」と、施設の構成や各室の配置の考え方や概念的な関係性を抽象的に図式化した「ダイアグラム」をもとに、学校施設の配置計画や各室の要望について議論し、アイデアを出し合いました。主な意見は次の通りです。



●施設整備全般

- *学年の区切りを超えた交流（タテ・ナナメの関係性）が取れるようなスペースや動線の工夫が必要。
- *拡張性を意識したスペースづくりをしていきたい。
- *人を惹きつけ、子どもが増えるような学校にしたい。

●教室

- *教科センター方式を採用した場合に、居心地のよいスペースを確保してほしい。
- *学年によって形状や雰囲気が変えられるとよい。

●図書館

- *ものづくりやアート等の諸室と一体となった図書館。
- *地域開放になる可能性を考慮し、拡張性を意識。

●コミュニティスペース

- *自治会やPTAの方々が使用できるスペース。
- *図書館やランチルームの近くに園児を受け入れ可能なスペースを設けたい。
- *未就学児や町民と交流するためのスペースや動線の工夫。

●ランチルーム

- *地域の人も利用可能なカフェのようなランチルーム。
- *災害時の食事の提供を想定したランチルーム。

●職員スペース

- *管理上、1階に設けるほうがよい。
- *フリーアドレスの採用、話し合えるスペース。



第10回準備委員会のお知らせ * 傍聴も大歓迎

日 時：1月10日(金)13:40～

会 場：町民センター2階 第2会議室

テーマ：「基本構想・基本計画(案)の検討」

委員会の議事録と
資料(一部)は
こちらから➡

